

## ■豊間中の校舎

雑な思いがある。

津波で多くの犠牲者を出した地区の住民だからこそ感じ得る複雑な思いが重なるのだ」と振り返る遺族の言以外にも「住宅再建

「犠牲者の家族から悲惨な震が入り込んでいく上で遺構の近くに家を建てると、泣きながら訴えられた。鈴木幸長副区長(仮)は明かす。約20世帯をくくる中で被災の跡を残すこと保存するかどうかの検討が市と住民の間で行われたが、市は昨年12月、住民の意向を踏まえ解体を決めた。震災を風化させず語り継ぐための遺構だが、解体の結論に至った背景には

# 保存と解体と

## 津波の犠牲 複雑な思い



市と住民の話し合いで解体が決まった豊間中校舎